

例えば

こんなことに困ることがあります

程度や現れ方は人さまざま。
本人が気づきにくいこともある。

とてもつかれやすくなる 思考のスピードが遅くなる

- 脳の損傷があると、疲れやすくなります。
- あくびが出て、今やっていることに集中できなくなります。
- 疲れていることに気づかず、イライラしてしまうこともあります。
- 一度にいくつものことを考えることが苦手になります。
- 以前と同じようなテンポで物事を処理することが難しくなります。



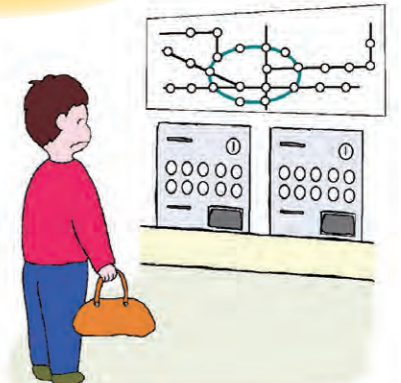
コミュニケーションが うまくいかない

- 左脳の言語野を損傷すると、話す、聞く、書く、読むなどの言語機能に障害が起こります。
- 話したいことが頭に浮かんでも言葉がスムーズに出てこないこともあります。
- よく知っていたはずの文字や数字を扱うことが苦手になる場合もあります。
- 右脳の損傷では、相手の表情をうまく読み取れない、場の雰囲気鈍感になる、などが生じます。



図や表示の意味が よくわからない

- 文字が読めなくなることがあります。
- 左側（あるいは右側）の空間にある情報を見落としてしまうことや、たくさんの情報が示されると、一度に処理することが難しくなります。
- 地図と自分の位置がうまく確認できずに迷ってしまう人もいます。



新しいことを覚えにくい

- 脳損傷による記憶障害では、病気や事故にあう前の記憶は比較的よく保たれます。
- さっき話したことや聞いたことを忘れて繰り返し同じ話をする、新しい手順を覚えることが難しい、同じ間違いを繰り返してしまう、などが起こります。



段取りよく、物事を進められない

- 一つのことをやり通すのに時間がかかります。
- 優先順位を決められない、間違いを修正することができない、などが起こります。
- 目標を定めたり、計画的に進めることが苦手になります。



感情のコントロールがきかない

- 些細なことで腹を立てたり涙もろくなることがあります。
- 指示されない行動を起こせなかったり、物事への意欲が低下してしまうこともあります。
- このように病気やケガの前と人柄が変わってしまうので、周囲の人が戸惑います。



対応の基本

- 受傷後、日常生活や対人関係、仕事などがうまく行かず自信をなくし、混乱や不安の中にいることを理解しましょう。
- これまでの生活や人生観などを尊重した関わりをもつようにしましょう。

具体的には

- ゆっくり、わかりやすく、具体的に話します。
- 情報は、メモに書いて渡し、絵や写真、図なども使って伝えます。
- 何かを頼むときには一つずつ、具体的に示します。
- 疲労やいらいらする様子が見られたら一休みして気分転換を促すようにします。
- 手順を簡単にする、日課をシンプルにする、手がかりを増やすなどの環境の調整をすることが大切です。

高次脳機能障害の変化と回復

- 何年もかけてゆるやかに変化していきます。回復の状況によっては、再び職業生活に挑戦することもできます。
- 人それぞれ違う障害の特徴を、周囲が理解しサポートする必要があります。
- 思いがけない病気や事故による障害のため、ご本人や家族にとって、以前との違いを理解し受け止めるのに時間がかかります。

できないことより
できることを見つけよう。

あせらずゆっくり、
生活の中でリハビリを



ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分らなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。詳しくはホームページをご覧ください。
https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/helpmark.html

